

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 石川県金沢市立四十万小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒 921-8135
石川県金沢市四十万3丁目186番地
E-mail shijima-e@kanazawa-city.ed.jp
Website _____
幼児児童生徒数 男子 254名 女子 256名 合計 510名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)
※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「伝えよう！わたしたちの願い～地域とともに生き、未来へつなごう、わたし達の夢～」を活動テーマとし、ESDを地域に目を向けた持続発展教育と捉え、ESDの実践を通して、①課題設定・情報の収集する力②情報の整理・分析、思考・判断し、まとめて表現する力③自己理解(よりよい姿を求めて行動する力、地域を大切にする態度)④他者尊重(協働して課題を解決する力、地域の活動に参加する態度)の育成を目標とした。

具体的には、環境、国際理解、伝統文化柱に、①地域の自然に係わる活動、②地域の伝統文化に係わる活動、③米作りと環境に係わる活動、④地域の魅力と国際交流に係わる活動を行った。

①地域の自然に係わる活動(3年生「探検！発見！四十万山と竹」)

地域のNPO法人「みんなの畑の会」の方の協力により竹の子掘り体験を行った。また、四十万山の歴史や四十万山の現状についてもお話を聞き、四十万山の竹や竹の子について各自が疑問に思ったことなどを調べ、報告文にまとめ、みんなに広めた。更に、自分たちの生活の中の竹道具を調べた。竹道具が少なくなっている現状を知り、自分たちも作ってみたいという思いから地域の名人を招き、親子活動で竹工作活動を行った。地域の方との身近な関わりに気づくことができた。

②地域の伝統文化に係わる活動（４年生 「すごいそ！金沢、大発見！」）

金沢の伝統工芸の中から興味のあるものを各自で調べ、水引や金箔について更に詳しく追求し、職人さんを招き「水引作り」や「箔押し」の体験活動を行った。職人技のすごさや素晴らしさ、歴史や由来、込められた願い等を学ぶ機会となり、全校児童に伝えた。金沢の偉人について、「ふるさと偉人館」に見学に行き、興味を持った“金沢に関わりのある偉人”を調べる活動を行った。身近な偉人にふれ憧れや尊敬の気持ち、自分自身の夢をもつきっかけとなった。

③地産地消と環境に係わる活動（５年生 「体験・発見！わたしたちのふるさと四十万」）

地域の農家の方に、美味しいお米の作り方を教わり、田植えから脱穀・粃摺りまでを実際に体験し、稲を育てることの大変さを体得した。収穫祭では、自分達で育てたお米を玄米にし、白米と混ぜておにぎりパーティーをし、苦労して育てたからこそ味わえるおいしさを体感した。四十万山探検では、「森と生きる会」の方々と、手入れしてある山としていない自然のままの山の比較や林業従事者が受け継いできた仕事の知恵のお話、未来の四十万山を創るための植樹体験を行った。四十万山から守られ、沢山の恩恵を受けていることを学んだ。

④地域の魅力と国際交流に係わる活動（６年生 「金沢の魅力伝え隊！ to 台湾」）

「金沢の魅力」を知る学習では、食・建造物・伝統工芸等のテーマに分かれ調べ学習を進め、金沢には古くから伝わる伝統的なものが多いことを理解した。１０月には、ボランティアガイドと一緒に、金沢城や長町武家屋敷などを見学し、「金沢の魅力」についてブックにまとめる活動を行った。外国の子どもたちと交流するテディベアプロジェクトでは、大学生とともにワークショップ「世界がもし１００人の村だったら」の体験や留学生のぬいぐるみを通して、相手国とのつながりの他、異文化への興味や日本文化の魅力を再発見につながり、一緒に平和な未来をつくっていかうという思いを持った。



竹やたけのこについてお話を聞く子どもたち



職人さんに教わりながら箔押し体験する子どもたち



「森と生きる会」の方々と植樹する子どもたち



ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」を体験する子どもたち

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

3 年 竹に関する様々な書籍
4 年 金沢市小学校伝統・文化副読本「華やか金沢」、金沢ふるさと偉人館
6 年 金沢の史跡、名所、観光スポット等に関する書籍、ウェブサイト、パンフレット等多数

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間として、年間を通した教育課程に位置付け、課題解決型の学習過程になるよう考慮し、編成している。また、毎年、活動内容や取り組み時期等の見直しを行い、地域教材の開発に努めたり、地域の方々とのつながりを大切にし、連携を密にしたりしながら活動の充実を図っている。具体的には、地域の NPO 法人「畑の会」、地域の竹細工名人、水引工房「自遊花人」、「金沢仏壇商工業協同組合」、「森と生きる会」、台湾の小学生との交流や活動等であり、多くの方々と実際にふれあう機会を持つことを大切にしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域の中で協力してくださった方々に活動後の成果や感想、学んだこと等を伝えるために、手紙等を書いてお礼の気持ちを伝えている。また、総合的な学習の成果発表として、学習発表会を年間計画に位置づけ、協力してくださった方々や地域の方々を招待している。地域とのつながりを互いに実感できる場の充実を図っている。1, 2 年生も 3～6 年生の発表を見て回り、これから学習することについて知り、見通せるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動毎にワークシートを作成し、児童が書いたものをファイルに綴ってポートフォリオ評価をしている。児童もファイルを見返し、これまで学習したことやそこから学んだこと、気づいたこと等を確認することができた。また、これから考える課題は何なのかといったことが明確になり、連続性のある学びを意識できるようになった。外部へは、学習発表会で成果を発表しており、参観者も増加傾向にある。地域の方々と児童との意見交換の場を設定することも検討していきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

昨年度より金沢市立全小中学校を対象に「金沢ユネスコ子どもサミット」が開催されるようになり、各学校の取組内容を模造紙１枚にまとめ、代表が発信する場が設けられた。昨年度は、３～６年生の実践を、今年度は４年生の実践をまとめた。他校の実践を学ぶことで、自己の価値観や生き方を見直すきっかけとなり、持続可能な社会の構築に向けて行動する態度の育成につながっている。（今年度は、大雪のために中止）

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

３年生 地域の竹細工名人との竹細工作り、NPO 法人「畑の会」の方々による竹とたけのこの説明、たけのこ掘り（地域の自然を学ぶ）
４年生 水引工房「自遊花人」との水引細工体験、「金沢仏壇商工業協同組合」の方々との箔押し体験（伝統文化を学ぶ）
５年生 地域の農家の方とのバケツ米作り体験、「森と生きる会」の方々との四十万山探検（地産地消と環境を学ぶ）
６年生 星陵大学の学生によるワークショップ体験、台湾の小学生との授業体験（国際理解について学ぶ）

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

石川県内では、先に述べた「金沢ユネスコ子どもサミット」において、各校の実践を交流する場が設けられている。６年生においては、「テディベアプロジェクト」という取組で日本と台湾のぬいぐるみを互いに送り合うことを通して台湾の小学生と交流した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

金沢の伝統文化や携わる人々とのふれ合いや偉人について学ぶことを通して、自分たちの地域のよさを再確認したり願いに気づいたりし、地域への誇りや愛情、畏敬の念等の心情面で大きな成長が生まれた。また、身近な問題について地域の方から学ぶことや、他校の児童と情報や体験を分かち合うことを通して、物事を広い視点で考える力が育った。更に、他国について学ぶことで、自国の文化へのさらなる理解が深まり、関心も広まった。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 地域の特色である竹や四十万山の自然の大切さについて、四十万山の竹の観察や竹の子掘りの体験、竹細工作り等の体験活動を取り入れた学習活動を行う。（3年生）
- ・ 金沢の伝統文化のすばらしさや金沢出身の偉人の功績について、水引工や箔押し体験、「ふるさと偉人館」への見学等の体験活動を取り入れた学習活動を行う。（4年生）
- ・ ふるさと四十万山と米作りを通じた地産地消の在り方について、地域の方からのお話や米作り、四十万山の探検等の体験活動を取り入れた学習活動を行う。（5年生）
- ・ 自文化（歴史的背景を通して金沢のよさを知る）、異文化（外国との関わりの中で相手の国のよさにも気づく）を理解し、世界を踏まえたこれからの金沢の在り方について、金沢探訪やワークショップ等の体験活動等を取り入れた学習活動を行う。（6年生）